

EU 投資フォーラム: Why Should I Invest in the European Union?

2026 年 3 月 10 日 (火) 16:30~20:00 東京 (8:30~12:30 ブリュッセル)

天野辰之氏 (国際協力銀行 常務執行役員・資源ファイナンス部門長) による、国際協力銀行の EU 向け業務に関する取組紹介:

私は現在、エネルギー・鉱物資源分野を管掌しております。また、日 EU・EPA 締結時には欧州 RM を担当し、国際協力銀行 (以下 JBIC) と欧州投資銀行 (以下 EIB) の業務協力協定にも関わった経緯から、本日参加させていただきました。本日の議論を通じ、以前と比べ EU が日本からの投資誘致により積極的に関与している点に変化を感じています。

JBIC は、資源の確保、日本の産業競争力の維持・向上、環境保全、国際金融秩序の維持という 4 つの使命のもと業務を行っています。EU ではこれまで産業競争力関連の案件が中心でしたが、地政学的な不安定化を踏まえ、今後はクリティカルミネラルを含む資源分野での協力も強化していきたいと考えています。

欧州は JBIC にとって重要な地域であり、足元の業務残高ではアジアに次ぐ規模で、アメリカよりも大きくなっています。その意味でも、欧州は JBIC 業務の中核の一つです。JBIC の先進国向け業務には民業補完等の観点から一定の分野制約がありますが、昨年秋に対象分野を拡大し、医薬品、自動車、鉄鋼・鉄鋼製品なども対象に加わりました。また、日本企業による M&A を通じた EU 進出については、比較的柔軟に対応出来る仕組みとなっています。これまで具体的には、フランスの洋上風力、ドイツの地熱発電、ポーランド BGK のサムライ債保証・取得などに関与しており、EU 各加盟国政策金融機関や EIB、EU イノベーション基金と連携しています。また、北欧スタートアップ向け VC ファンドにも参画しています。

JBIC が実施した調査によれば、日本企業の EU 投資への関心は高まっており、特に化学、電機、機械分野で顕著です。一方で、EU 事業の収益性に課題を感じる企業も増えており、今後の成長見通しが投資判断の重要な要素になると考えています。ビジネス機会としては、サーキュラーエコノミー、バッテリー、水素等のサステナビリティ分野への関心が高い一方、環境規制の複雑さやそれらに対応するための人材確保が課題として挙げられています。JBIC としては、今後も広く EU 加盟国及び各加盟国機関と連携し、日本企業と EU 企業のビジネスを支援してまいります。